

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野		人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策		事業番号、事業名		11地すべり対策		補助・単独別		補助		建設部 砂防課	
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針		
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況					
1	こまごめ 駒込	集水井工 6基 横ホーリング工 L=12,367m 抑止杭工 N=49本 水路工 L=1,235m 〔工期:H18~H23〕	集水井工 1基 横ホーリング工 L=1,000m	集水井工 1基 横ホーリング工 L=1,000m	集水井工 1基 横ホーリング工 L=1,000m	必要性 A	97.3%	計画どおり進んでいる。H22年度にA-2-2ブ ロックを概成させ、H23年度にA-2-3ブロック に着手し完了させるよう進める。	平成18年8月に地す べり災害が発生しており、その周辺でも同様 の変状が見られる。平 成23年度に概成を図 る。	H23年度での概成を 図る。	「継続」		
	〔佐久市〕	9億4240万円	5700万円	2500万円	2500万円	重要性 B 特記事項 平成18年8月災害関連緊急対応箇所 効率性 A B/C(費用対効果)=1.97 緊急性 A 住民参加状況等 水路清掃の協働作業や草刈り等を行っている。							
2	おのやま 尾野山	横ホーリング工 L=3,950m 水路工 L=940m 集水井工 5基 法面工 A=8,450㎡ 〔工期:H22~H30〕	調査測量設計 1 式	水路工 L=200m	横ホーリング工 L=3,950m 水路工 L=940m 集水井工 5基 法面工 A=8,450㎡	必要性 A	2.5%	計画どおり進んでいる。 H22年度に調査測量設計を行い、H23年度に 工事に着手する。	当地区は、保全対象 に、地域防災計画に 記載されている避難所 等非常に重要な施設 がある。平成21年の 豪雨により、公共施設 等に地すべり兆候が 見られるため、引き続 き対策を行う。	重要性が高く、必要 性も認められる。	「継続」		
	〔上田市〕	5億5000万円	1400万円	2000万円	5億3600万円	重要性 A 特記事項 B/C(費用対効果)=3.52 効率性 B 緊急性 B 住民参加状況等 水路の清掃等維持管理への協力がある。							
3	かみ 開蓬	横ホーリング工 L=5,600m 水路工 L=740m 集水井工 2基 〔工期:H19~H25〕	横ホーリング工 L=450m 水路工 L=120m	横ホーリング工 L=500m 水路工 L=410m	横ホーリング工 L=1200m 水路工 L=270m 集水井工 2基	必要性 A	53.0%	計画どおり進んでいる。H22年度に変動が著 しいブロックが完了し、H23年度に周辺ブロッ クの対策工事に着手する。	平成19年5月、平成2 1年8月に地すべり災 害が発生しており、そ の周辺でも同様の変 状が見られるため、引 き続き対策を行う。	重要性、緊急性が高 く、必要性も認めら れる。	「継続」		
	〔阿南町〕	4億1000万円	3000万円	4030万円	2億1770万円	重要性 A 特記事項 H19災害関連緊急対応箇所 H22変更 工法変更 1億3千8百万円増 工期延長2年 平成21年8月豪雨により新たに地すべり災害が発生し、その対 策を行うため、計画変更を行った。 効率性 A 緊急性 A 住民参加状況等 水路の清掃等維持管理への協力がある。							
4	ひき 引の田	横ホーリング工 L=1,190m 水路工 L=600m 谷止工 2基 〔工期:H22~H30〕	調査測量設計 1 式	横ホーリング工 L =1,190m	横ホーリング工 L=1,190m 水路工 L=600m 谷止工 2基	必要性 A	4.6%	計画どおり進んでいる。 H22年度に調査測量設計を行い、H23年度に 工事に着手する。	当地区は、保全対象 に、地域防災計画に 記載されている避難 所、人家107戸が存在 するなど非常に重要な 施設がある。平成21 年の豪雨により、地す べり兆候が見られるた め、引き続き対策を行 う。	重要性、緊急性が高 く、必要性も認めら れる。	「継続」		
	〔大鹿村〕	3億5000万円	1600万円	5000万円	3億3400万円	重要性 A 特記事項 B/C(費用対効果)=2.00 効率性 B 緊急性 A 住民参加状況等 水路の清掃等維持管理への協力がある。							

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策			補助・単独別		補助	建設部	砂防課	
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
5	おちあい 落合  〔山ノ内町〕	集水井工 30基 横ポーリング工 L=1,415m 排水トンネル工 L=385m 水路工 L=2,000m 〔工期：H3～H25〕	排水トンネル工 L=55m 水路工 L=300m 集水井工 2基	集水井工 1基 水路工 L=100m	集水井工 5基 水路工 L=300m	必要性 A	86.2%	計画どおり進んでいる。 H22に排水トンネルが完成し、引き続き集水井を施工する。	当地すべり地の土砂流出による下流域の被害は甚大であり、土塊の動きが顕著なため、今後も継続的な観測及び対策工事が必要である。	緊急性が高く、必要性、重要性も認められる。	「継続」 「再評価」
		32億4200万円	2億5850万円	9040万円	3億9420万円	重要性 A	特記事項 H22 再々評価 工法見直して継続 3百万円減				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.19				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし				
6	たきのわき 滝の脇  〔飯山市〕	横ポーリング工 L=4,020m アンカー工 21本 谷止工 1基 水路工 L=660m 〔工期：H20～H23〕	谷止工 1基 水路工 400m	谷止工 1基	谷止工 1基	必要性 A	83.6%	計画どおり進んでいる。 H23年度に谷止工を完成させ概成とする。	平成20年9月に地すべり災害が発生したため、沈静化に向け対策を進めてきており、引き続き対策を行いH23年度概成を図る。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
		1億8278万円	3830万円	3180万円	3000万円	重要性 A	特記事項 平成20年災害緊急対応箇所				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.39				
						緊急性 B	住民参加状況等 地元住民による水路清掃を行っている。				
7	ほうせい 豊盛  〔池田町〕	水路工L=3,390m 横ポーリング工 L=6,990m 集水井工 2基, 〔工期：H14～H23〕	集水井工 1基	横ポーリング工 L=605m	横ポーリング工 L=605m	必要性 A	92.5%	計画どおり進んでいる。 H23年度に横ポーリング工を完成させ概成とする。	平成14年に地すべり災害が発生し、災害発生箇所から近隣地すべり地と順次対策を進めている。地すべり活動の兆候があり、人家等が近接していることから、引き続き対策を行い、平成23年度概成を図る。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
		6億230万円	5800万円	4500万円	4500万円	重要性 A	特記事項 平成5年度・平成14年度災害緊急対応箇所				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.35				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
8	あいどうじ 相道寺  〔池田町〕	水路工L=180m 横ポーリング工 L=2800m 集水井工 2基, 〔工期：H22～H24〕	水路工L=80m 横ポーリング工 L=800m 集水井工 2基	横ポーリング工 L=1000m 水路工L=50m	横ポーリング工 L=2000m 水路工L=100m	必要性 A	67.6%	計画どおり進んでいる。 H22年度に災関ブロックを完成させ、H23年度から新規ブロックに着手する。	平成22年に地すべり災害が発生し災害ブロックの対策を行なった。災害発生箇所から近隣地すべりブロックにおいても地すべりの兆候があり、人家等が近接していることから、引き続き対策工を行なう必要がある。	緊急性が高く、必要性、重要性も認められる。	「継続」
		1億9248万円	1億3248万円	3180万円	6000万円	重要性 A	特記事項 平成22年度災害緊急対応箇所				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=3.74				
						緊急性 A	住民参加状況等 地域住民による維持管理の協力がある。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策				補助・単独別		補助	建設部	砂防課
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
9	おおくら 大倉  〔生坂村〕	抑止杭工 N=34本、横ボ-リング工 L=2465m、法面工 A=2,500m <sup>2</sup> 、水路工 L=1,820m、排土工 V=5,000m <sup>3</sup> 、押え盛土工 V=5,000m <sup>3</sup> 、谷止工5基 〔工期：H16～H25〕	水路工 L=150m、谷止工1基	谷止工 3基	水路工 L=225m 谷止工4基 横ボ-リング工 L=2000m	必要性 A	78.0%	H22年度着手ブロックが完成し、H23から新規ブロックの谷止工に着手する。	平成16年に地すべり災害が発生し、災害発生箇所から近接地すべり地と順次対策を進めている。活発化すると河川が埋塞し下流に被害を引き起こす可能性があり、平成22年8月豪雨により新たな地すべり活動がみられたため、計画を拡大し対策を行う。	新たな地すべりに対する追加対策の必要性が認められる。	「拡大」
		7億円	5000万円	4000万円	1億5337万7千円	重要性 A	特記事項 平成16年度災害緊急対応箇所 平成23変更：谷止工4基増、事業費7,500万円増、工期2年増 平成22年度に現地調査を行なった結果、新たに地すべり活動が確認されたため、谷止工等の対策を行う必要があることから、計画を変更して対策を行う。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.44				
						緊急性 A	住民参加状況等 砂防ボランティアにより、水路や支障木の伐採を行っている。				
10	ききお 世尾  〔大町市〕	水路工L=1,230m、横ボ-リング工L=4708m、集水井工2基、法面工A=118m <sup>2</sup> 〔工期：H16～H25〕	水路工L=55.2m 集水井工 1基	横ボ-リング工 L=600.0m	水路工L=245.8m 横ボ-リング L=2,158m 集水井工 1基	必要性 A	61.5%	平成23年度に新しい地すべりブロックに着手し、ブロックを概成させる。	平成16年に地すべり災害が発生し、災害箇所隣接するブロックを順次対策を行なっている。人家等が近接している箇所であり、地すべり活動が活発化すると人家に被害が生じる可能性があることから、引き続き対策を行う。	必要性、重要性が認められる。	「継続」
		4億4000万円	5000万円	4000万円	1億69万2千円	重要性 A	特記事項 平成16年度災害緊急対応箇所 平成23変更：谷止工24基減、横ボ-リング工L=4132m増等、事業費8,000万円増、工期2年増 H22年度に全体計画の精査 B/C(費用対効果)=1.39				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.39				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
11	いちのせ 市の瀬  〔大町市〕	横ボ-リング工 L=6118m、集水井工3基、水路工 L=2432m 〔工期：H16～H23〕	集水井工 1基	集水井工 1基	集水井工 1基	必要性 A	91.2%	計画どおり進んでいる。H23年度に集水井工を完了させ概成させる。	平成16年に地すべり災害が発生し、被災箇所、隣接ブロックと順次対策を進めている。避難場所である集会所がある等地すべり活動が活発するとそれらに被害が生じる恐れがあることから、引き続き対策を行い平成23年度に概成させる。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
		3億4230万円	3000万円	3000万円	3000万円	重要性 A	特記事項 平成16年度災害緊急対応箇所 B/C(費用対効果)=1.35				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.35				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
12	つちぶくろ 土袋  〔大町市〕	アンカー工N=63本、横ボ-リング工 L=3,052m、法面工 A=3,148m <sup>2</sup> 、谷止工 N=3基、水路工 L=784m、土留工 L=183m 〔工期：H16～H24〕	横ボ-リング工 L=680m、土留工L=250m、水路工L=20m	横ボ-リング工 L=550m、法面工A=640m <sup>2</sup> 、水路工L=20m	横ボ-リング工 L=1,850m、法面工A=640m <sup>2</sup> 、水路工L=136m	必要性 A	81.4%	H22年度に災関ブロックを概成させH23年度から隣接ブロックに着手する。	平成16年に地すべり災害が発生し、被災箇所を重点的に進めてきた。隣接ブロックにも地すべりの兆候が見られるため、引き続き対策を行う必要がある。	予定工期内での概成を図る。	「継続」
		5億円	7000万円	3000万円	9300万円	重要性 A	特記事項 平成16年度災害緊急対応箇所 B/C(費用対効果)=1.07				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.07				
						緊急性 B	住民参加状況等 施設が完成した後は、水路清掃等維持管理を地元をお願いしている。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策				補助・単独別		補助	建設部	砂防課
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
13	おおほら 大洞  〔大町市〕	水路工 L=814m 横ボーリング工 L=9,060m 法面工 A=6,214m <sup>2</sup>  〔工期：H16～H23〕	水路工 L=200m 横ボーリング工 L=1500m	水路工 L=94m 横ボーリング工 L=675m	水路工 L=94m 横ボーリング工 L=675m	必要性 B	93.3%	計画どおり進んでいる。 H22年度に最終ブロックに着手し、H23に最終ブ ロックの対策を完了し概成とする。	平成16年度に地すべり 災害が発生し、被災 箇所の対策を進めて きた。隣接するブロ ックにおいても地すべ り兆候が見られるため、 引き続き対策を行い平 成23年度概成とする。	平成23年度での概成 を図る。	「継続」
						重要性 A	特記事項 平成16年度災害緊急対応箇所				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.01				
		4億5000万円	3000万円	3000万円	3000万円	緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
14	すげのくぼ 菅の窪  〔大町市〕	横ボーリング工 L=2,400m 水路工L=1,000m 谷止工N=2基  〔工期：H21～H24〕	横ボーリング工 L=240m 水路工 L=100m	谷止工 1基	横ボーリング工 L=2,160m 水路工L=900m 谷止工N=2基	必要性 B	13.6%	計画どおり進んでいる。 H22にEブロックが完成し、H23年度より谷止 工に着手する。	地すべり兆候を示す 滑落崖や、歪計に大き な変状が見られ、更に 地すべり活動が活発 化すると河川を埋塞さ せ、下流人家等に被 害を及ぼす恐れがあ るため引き続き地すべ り対策を実施する必要 がある。	緊急性が高く、重要 性も認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.01				
		2億2000万円	3000万円	3840万円	1億9000万円	緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
15	しゃくろうじ 社宮寺  〔松本市〕	法面工 A=840m <sup>2</sup> 横ボーリング工 L=1,960m 水路工L=690m  〔工期：H21～H26〕	横ボーリング工 L=400m 水路工L=100m	横ボーリング工 L=900m 水路工L=346m	法面工 A=1,000m <sup>2</sup> 横ボーリング工 L=1,860m 水路工L=700m	必要性 A	30.4%	計画どおり進んでいる。 H22に対策工事に着手し、H23年度は引き続 き対策工事を施工する。	地すべり兆候を示す 滑落崖が見られ、更に 地すべり活動が活発 化すると人家、県道に 被害を及ぼす恐れが あるため早急に地すべ り対策を実施する必要 がある。	緊急性が高く、必要 性、重要性も認めら れる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.13				
		2億4000万円	1500万円	3000万円	1億9700万円	緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
16	かたやま 片山  〔松本市〕	横ボーリング工 L=3,000m 水路工L=300m 杭工 16本  〔工期：H22～H25〕	調査測量設計 1 式	横ボーリング工 L=630m 水路工L=100m	横ボーリング工 L=3,000m 水路工L=300m 杭工 16本	必要性 A	13.3%	計画どおり進んでいる。 H22に調査測量設計を行い、H23年度から工 事着手する。	平成21年の豪雨で人 家直下に地すべり兆 候を示す滑落崖が見 られ、更に地すべり活 動が活発化すると人 家に被害を及ぼす恐 れがあるため早急に 地すべり対策を実施 する必要がある。	必要性、重要性が認 められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.81				
		1億5000万円	2000万円	3040万円	1億3000万円	緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策			補助・単独別		補助	建設部	砂防課	
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
17	かしお 柏尾  〔安曇野市〕	集水井工 N=7基 横ボーリング工 L=5,594m 水路工 L=1,993m 抑止杭工 N=50本  〔工期：H15～H23〕	横ボーリング工 L=900m 水路工 L=410m	横ボーリング工 L=900m 水路工 L=80m	横ボーリング工 L=900m 水路工 L=80m	必要性 A	92.7%	計画どおり進んでいる。 H23年度に新規ブロックに着手し概成させる。	近年地すべり災害が発生し、災害ブロックの対策及び隣接ブロックの対策を行なってきた。地すべり兆候を現す滑落崖等が見られることから引き続き対策を行ない、平成23年度に概成とする。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
		5億4974万円	4000万円	3500万円	4000万円	重要性 A	特記事項 平成14年度災害緊急対応箇所				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=1.23				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
18	たかはな 高鼻  〔安曇野市〕	横ボーリング工 L=2,000m 水路工L=700m  〔工期：H21～H25〕	横ボーリング工 L=400m 水路工L=150m	横ボーリング工 L=440m 水路工L=220m	横ボーリング工 L=1,600m 水路工L=550m	必要性 A	22.5%	計画どおり進んでいる。 H22に新規ブロックに着手し、H23年度は横ボーリングを行い事業進捗を図る。	地すべり兆候を示す段差、湧水等が多く見られ、地すべり活動が活発化すると人家、重要交通網等に被害が及ぶことから引き続き対策を行う必要がある。	重要性が高く、必要性も認められる。	「継続」
		1億5000万円	2000万円	3000万円	1億1630万円	重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=3.47				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
19	たかはぎ 高萩  〔安曇野市〕	法面工A=2100㎡ 横ボーリング工 L=840m  〔工期：H22～H24〕	法面工 A=1,160㎡ 横ボーリング工 L=390m	法面工A=940㎡	法面工A=940㎡ 横ボーリング工 L=450m	必要性 A	92.7%	H22年度に災関ブロックを完了し、H23年度では周辺ブロックの対策を行う。	平成22年に地すべり災害が発生し災害ブロックの対策を行なった。災害発生箇所から近隣地すべりブロックにおいても地すべりの兆候があり、人家等が近接していることから、引き続き対策を行なう必要がある。	重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。	「継続」
		1億9728万円	1億7280万円	7440万円	9000万円	重要性 A	特記事項 平成22年度災害緊急対応箇所				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.34				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
20	いちぼくごう 市場1号  〔小谷村〕	集水井工 2基 横ボーリング 4990m 水路工 1,325m  〔工期：H14～H23〕	横ボーリング工 L=800m 水路工 100m	水路工 40m	水路工 40m	必要性 A	95.0%	計画どおり進んでいる。 H22年度に横ボーリング工が完了し、H23年度に水路を施工し概成とする。	地すべり活動による変状等が見られ、地すべり活動が活発化すれば下流人家や重要交通網に被害が生じる恐れがあるため、引き続き事業を実施し、平成23年度に概成とする。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
		4億20万円	3000万円	2000万円	2000万円	重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=1.99				
						緊急性 B	住民参加状況等 施設に異常があった場合等は、速やかに連絡が取れる体制になっている。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策		事業番号、事業名	11地すべり対策		補助・単独別	補助	建設部	砂防課		
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
21	くろくら 黒倉	集水井工 4基 横ポーリング1,050m 水路工720m 〔工期:H19~H23〕	集水井工 1基	水路工L=120m	水路工 L=120m	必要性 A	93.7%	計画どおり進んでいる。 H22年度に集水井を完成させ、H23では水路工を施工し概成させる。	融雪期、降雨期には、しばしば地すべりが発生し家屋の歪み、道路クラック等の顕著な変状が現れていることから、引き続き対策を行い、平成23年度に概成とする。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
		[小谷村]	3億1720万円	8800万円	2000万円	2000万円	重要性 A	特記事項 特になし。			
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.37				
						緊急性 B	住民参加状況等 昨年度施工した水路工の周辺について、地元が草刈りを実施する等、維持管理への協力体制がある。				
22	しょう 城	横ポーリング工 L=3,800m 水路工L=430m 〔工期:H19~H23〕	横ポーリング工 L=600m 水路工72m	横ポーリング工 L=300m	横ポーリング工 L=300m	必要性 A	93.0%	計画どおり進んでいる。 H23年度に最終ブロックに着手し概成とする。	H19年度に地すべり災害が発生し、被災ブロック及びその周辺の対策を進めている。地すべり活動が活発化すると河川を埋塞させ下流人家等に被害を及ぼす可能性があることから引き続き対策を行い、平成23年度に概成とする。	平成23年度での概成を図る。	「継続」
		[小谷村]	1億4243万円	2000万円	1000万円	1000万円	重要性 A	特記事項 平成19年度災害緊急対応箇所			
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.74				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
23	まえきわ 前沢	集水井工 11基 〔工期:H21~H28〕	集水井 1基	集水井工 2基	集水井工 10基	必要性 A	13.6%	計画どおり進んでいる。 H22年度に集水井1基、H23年度には集水井2基を施工し事業進捗を図る。	H20年度に湯沢川右岸に地すべり性のクラックが現れ、更に活発化すると、下流の重要交通網等に被害が生じるおそれがあるため、引き続き事業を実施する必要がある。	重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。	「継続」
		[小谷村]	10億円	7000万円	9020万円	8億6372万円	重要性 A	特記事項 特になし。			
						効率性 B	B/C(費用対効果)=5.87				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
24	ながさき 長崎	横ポーリング工 L=6,450m 水路工 L=400m 〔工期:H21~H25〕	横ポーリング工 L=1,000m 水路工 L=200m	横ポーリング工 L=1,600m 水路工 L=10m	横ポーリング工 L=5,450m 水路工 L=200m	必要性 A	31.6%	計画どおり進んでいる。 H22年度から対策工に着手し、H23年度も引き続き事業進捗を図る。	平成18年の融雪により、地すべり活動が活発化しており、保全対象にある広域避難場所の中土観光交流センター及び県道が被災すれば中谷川上流の人家が孤立する可能性があるため引き続き対策を行う必要がある。	重要性が高く、必要性も認められる。	「継続」
		[小谷村]	2億円	3000万円	4040万円	1億3680万円	重要性 A	特記事項 特になし。			
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.39				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策				補助・単独別		補助	建設部	砂防課
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
25	こみょう 光明  〔小谷村〕	法面工A=1210m2 水路工L=350m アンカー工N=12本 横ボ-リング工 L=520m  〔工期：H21～H25〕	法面工 A=700㎡ 水路工 L=100m	アンカー工N=12 本	横ボ-リング工 L=520m 水路工L=250m アンカー工N=12本	必要性 A	37.0%	計画どおり進んでいる。 H22年度に法面工、H23年度にアンカー工を 施工し事業進捗を図る。	平成21年2月に降雨により人家裏が崩壊して いる。また、地すべり 活動も活発化してお り、村道が被災すれば 4戸の人家が孤立する 可能性があるため引 き続き対策を行う必要 がある。	重要性、緊急性が高 く、必要性も認められ る。	「継続」
		1億7000万円	3000万円	4000万円	1億720万円	重要性 A	特記事項 特になし。	B/C(費用対効果)=2.04			
						効率性 A					
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
26	こえどう 越道  〔長野市〕	横ボ-リング工 L=9,000m 水路工 L=550m 法面工 A=525㎡ アンカー工 N=10本  〔工期：H16～H25〕	法面工 A=525㎡ アンカー工N=10 本	横ボ-リング工 L=1,200m	横ボ-リング工 L=5,000m 水路工 L=550m	必要性 A	53.3%	H22年度豪雨により人家下に地すべりが発生 し急遽法面工を実施した。H23年度から新規 ブロックに着手する。	災害履歴地であり、災 害ブロック周辺におい ても地すべりの兆候が 見られるため、引き続 き対策を行う必要があ る。 また、平成22年8月豪 雨により新たな地すべ りが発生し、それに伴 い対策が必要となった ため計画を見直した。	新たな地すべりに対 する追加対策の必要 性が認められる。	「拡大」
		3億3200万円	3000万円	3000万円	1億5500万円	重要性 A	特記事項 平成H16年災害緊急対応箇所 H22変更：H21年に新たに地すべりが発生したため、横ボ-リング工 L=3600m、水路工L=220m、法面工A=400㎡、アンカー工10本増とな り、事業費1億円及び工期2年増とした。				
						効率性 A					
						緊急性 B	住民参加状況等 施設管理について地元住民の協力を得て、施設に異常があっ た場合等は、速やかに連絡がとれる体制を整えている。				
27	しもかわ 下川  〔長野市〕	横ボ-リング工 L=4,300m 水路工L=340m 集水井 1基  〔工期：H20～H24〕	横ボ-リング工 L=1,200m	集水井工 基 1	横ボ-リング工 L=800m 水路工L=140m 集水井工 1基	必要性 A	28.3%	計画どおり進んでいる。 H22年度にA2ブロックを概成させ、H23年度 から新たなブロックに着手する。	平成19年の融雪によ り地すべり活動が活 発化しているため引き 続き対策を行う必要が ある。	必要性、重要性が認 められる。	「継続」
		2億円	3000万円	2100万円	1億432万4千円	重要性 A	特記事項 平成18年災害緊急対応箇所。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=5.21				
						緊急性 B	住民参加状況等 施工後の施設維持管理について、草刈り等を地元住民が中心と なり実施していくために、砂防等施設維持管理ボランティア活動 支援事業に参加している。				
28	とちくほ 栃久保  〔長野市〕	横ボ-リング工 L=1,600m 水路工L=200m 法面工A=2500m2 谷止工N=1基  〔工期：H20～H25〕	法面工A=1600㎡ 水路工L=100m	法面工A=700㎡ 水路工L=50m	法面工 A=700㎡ 水路工 L=70m 横ボ-リング工 L=1600m	必要性 A	46.1%	計画どおり進んでいる。 H22年度に法面工が完成し、H23年度から新 規ブロックに着手する。	平成19年の融雪によ り地すべり活動が活 発化し、人家裏対策を進 めてきている。H21年8 月の豪雨で人家裏が 崩れるなど活動が活 発化してきており、引 き続き対策を行う必要 がある。	緊急性が高く、必要 性、重要性も認められ る。	「継続」
		2億5000万円	5000万円	3000万円	1億3460万円	重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.63				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策				補助・単独別		補助	建設部	砂防課
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
29	おおが 大河  〔長野市〕	横ボーリング工 L=5100m 水路工L=500m 法面工A=900m <sup>2</sup>	調査測量設計 1 式	法面工A=900m <sup>2</sup>	横ボーリング工 L=5100m 水路工L=500m 法面工A=900m <sup>2</sup>	必要性 A	13.3%	H22年度に調査設計を行い、H23年度から工事に着手する。	平成22年に災害弱者施設裏の法面が滑落が拡大するなど、地すべり活動が活発化してきており、早急に対策を行う必要がある。	重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。	「継続」
		重要性 A				特記事項 特になし。					
		効率性 A				B/C(費用対効果)=6.31					
		緊急性 A				住民参加状況等 特になし。					
		1億5000万円	2000万円	2100万円	1億3000万円						
30	みついで 三ツ出  〔長野市〕	抑止杭工N=15本 アンカー工15本 横ボーリング工 L=4,700m 水路工 L=334m 法面工 A=460m <sup>2</sup> 集水井工 3基 〔工期:H16~H24〕	横ボーリング工 L=500m 水路工 L=300m	集水井工 1基 水路工 L=300m	抑止杭工 N=9本 アンカー工 9本 横ボーリング工 L=2615m 集水井工 2基 水路工 L=340m	必要性 A	61.9%	H22年度にAブロックの対策を実施し、H23年度では引き続き対策を行い事業進捗をはかる。	平成16年に地すべり災害が発生し、そのブロックの対策を実施しており、引き続き対策を行う必要がある。	必要性、重要性が認められる。	「継続」
		重要性 A				特記事項 H16災害緊急対応箇所 H22変更:工法変更、事業費1億6500万円増、工期2年増					
		効率性 A				B/C(費用対効果)=2.38					
		緊急性 B				住民参加状況等 対策後の地すべり防止施設の維持管理において、草刈りや水路清掃を行っている。					
		3億7500万円	3000万円	5110万円	1億5860万円						
31	ちつきやま 地附山  〔長野市〕	抑止杭工 N=76本 水路工 L=700m 法面工 A=820m <sup>2</sup> 横ボーリング工 L=5500m 〔工期:H16~H24〕	横ボーリング工 L=600m 水路工 L=150m	横ボーリング工 L=600m 水路工 L=150m	横ボーリング工 L=2000m 水路工 L=200m	必要性 A	85.3%	H22年度からJブロックに着手し、H23にJブロック概成。	H16・H18と地すべり災害が発生し対応してきている。災害ブロック及びその周辺にも地すべりの兆候が見られることから、引き続き対策を行う必要がある。	予定工期内での概成を図る。	「継続」
		重要性 A				特記事項 H16年度・H18年度災害緊急対応箇所。					
		効率性 B				B/C(費用対効果)=1.13					
		緊急性 B				住民参加状況等 特になし。					
		4億1144万円	2000万円	3000万円	6050万円						
32	いもいざくら 芋井桜  〔長野市〕	横ボーリング工 L=8500m 集水井工 4基 水路工L=600m 〔工期:H19~H27〕	横ボーリング工 L=1500m 水路工 L=200m	横ボーリング工 L=2000m	横ボーリング工 L=4500m 集水井工 3基 水路工 L=600m	必要性 A	45.8%	H22年度にA-3ブロックの対策が完了し、H23年度から新規ブロックに着手する。	平成19年10月に地すべり災害が発生、H22年においても地すべりブロックが拡大したため、早急な対策が必要である。	新たな地すべりに対する追加対策の必要性が認められる。	「拡大」
		重要性 A				特記事項 平成19年度災害緊急対応箇所。					
		効率性 B				H23変更:H22豪雨により新たな地すべりが発生したため、集水井工1基増、横ボーリング工L=2000m増とし、事業費4千万円増、工期3年延長とした。					
		緊急性 B				住民参加状況等 特になし。					
		4億5000万円	5000万円	4030万円	2億2210万円						



分野	事業番号、事業名	11地すべり対策	補助・単独別	補助	建設部	砂防課						
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容			項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針		
		全体概要	H22年度	H23年度		H23年度以降	H22年度末進捗率				進捗状況	
33	いちほ 市場  〔長野市〕	排土工V=25,980㎡、 法面工A=7,990㎡、集 水井工 N=2基、横 ボーリング工 L=4540m、水路工L= 1,500m、アンカー工 N=10本 〔工期：H18～H24 〕	横ボーリング工 L=1,090m 水路工L=200m	横ボーリング工 L=1,000m 水路工L=400m	横ボーリング工 L=1,910m 水路工 L=500m	必要性 A	75.0%	計画どおり進んでいる。 H22年度にAブロックが完成し、H23年度には 新規ブロックに着手する。	平成18年の台風により、地すべり活動が活 発化していることから 順次対策を行なっ てきており、引き続き対策 を行う必要がある。	必要性、重要性が認 められる。	「継続」	
						重要性 A	特記事項 特になし。					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=3.48					
						緊急性 B	住民参加状況等 砂防等維持管理ボランティア活動支援事業を締結し地元区で施 設維持活動を実施中。					
34	くらなみ 倉並  〔長野市〕	集水井工 3基 横ボーリング工 L=4223m 水路工 L=2000m  〔工期：H18～H25〕	水路工L=500m	集水井工 1基 水路工 L=500m	水路工L=1,340m 集水井工 2基	必要性 A	59.1%	計画どおり進んでいる。 H22年度からIVブロックに着手し、H23年度 は事業進捗を図る。	H18年度に地すべり活 動が活発化し、主要地 方道等の沈下が見ら れるため、継続して事 業を実施する必要が ある。	重要性が高く、必要 性も認められる。	「継続」	
						重要性 A	特記事項 特になし。					
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.20					
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。					
35	くりお 栗尾  〔長野市〕	集水井工 1基 横ボーリング工 L=6800m 水路工L=1200m 法面工A=2500m <sup>2</sup> 〔工期：H21～H25〕	横ボーリング工 L=1600m 水路工L=200m 法面工A=200m <sup>2</sup> アンカー工N=200本	法面工 A=1,600m <sup>2</sup>	集水井工 1基 横ボーリング工 L=5,200m 水路工 L=1,000m 法面工A=2,300m <sup>2</sup> アンカー工N=200本	必要性 A	15.5%	計画どおり進んでいる。 H22年度に新規ブロックに着手し、H23年度は 引き続き対策工を実施し事業進捗を図る。	平成20年の豪雨によ り人家が沈下する等 地すべり活動が活発 化しているため、継続 して対策工を行う必要 がある。	緊急性が高く、必要 性、重要性も認めら れる。	「継続」	
						重要性 A	特記事項 特になし。					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.95					
						緊急性 A	住民参加状況等 地すべり変状を機に、地元住民の土砂災害に対する意識が高ま り、H21年には砂防維持ボランティアとして活動している。					
36	にしがわら 西河原  〔長野市〕	横ボーリング工 L=6,400m 法面工A=770m <sup>2</sup> 水路工L=1,000m  〔工期：H21～H25 〕	横ボーリング工 L=720m 水路工L=140m	法面工A=770m <sup>2</sup>	横ボーリング工 L=5,680m 法面工A=770m <sup>2</sup> 水路工L=860m	必要性 A	31.5%	H22年度に新規ブロックの横ボーリングを 実施。H23年度には引き続き滑落崖の法面工を 実施し事業進捗を図る。	近年の集中豪雨等 により地すべり活動が 活発化しおり緊急性が 高いため、継続して事 業実施する必要があ る。	重要性が高く、必要 性も認められる。	「継続」	
						重要性 A	特記事項 特になし。					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=3.64					
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。					

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策			補助・単独別		補助	建設部	砂防課	
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
37	かわご 川後  〔長野市〕	集水井工 3基 横ポーリング工 L=2,950m 法面工L=2,000㎡ 谷止工1基 水路工L=1,000m 〔工期：H21～H25〕	法面工A=1,350㎡	法面工A=650㎡ 横ポーリング工 L=400m	集水井工 3基 横ポーリング工 L=2,950m 法面工L=650㎡ 谷止工1基 水路工L=1,000m	必要性 A	32.9%	計画どおり進んでいる。 H22年度に新規ブロックに着手し、H23年度では引き続き対策工事を行い事業進捗を図る。	平成20年の降雨等により、地すべり活動が活発化し緊急性が高いため、引き続き対策工を行う必要がある。	必要性、重要性、緊急性が高い。	「継続」
					重要性 A	特記事項 特になし。					
		2億円	3000万円	2810万円	1億3420万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=2.54				
					緊急性 A	住民参加状況等 砂防等維持管理ボランティア活動支援事業を締結し地元区で施設維持活動を実施中。					
38	せほらだ 瀬原田  〔長野市〕	横ポーリング工 L=4,300m 水路工L=340m 土留工L=150m 〔工期：H21～H24〕	横ポーリング工 L=800m 土留工L=150m	横ポーリング工 L=720m	横ポーリング工 L=3,500m 水路工L=340m	必要性 A	26.2%	H22年度に新規ブロックに着手し、H23年度も引き続き対策を行わない事業進捗を図る。	平成18年の豪雨により人家裏が滑落、平成20年の豪雨でさらに拡大したことから地すべり活動の沈静化に向け、継続して対策工を行う必要がある。	重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。	「継続」
					重要性 A	特記事項 H18梅雨前線豪雨、H20豪雨により活動が活発化。					
		1億5000万円	3000万円	2090万円	1億1070万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=12.53				
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし。					
39	ぶつくでん 仏工伝  〔長野市〕	法面工 A=2,000㎡ 横ポーリング工 L=4,000m 水路工L=500m 〔工期：H22～H25〕	調査測量設計 1式	横ポーリング工 L=600m 水路工L=100m	法面工 A=2,000㎡ 横ポーリング工 L=4,000m 水路工L=500m	必要性 A	11.7%	計画どおり進んでいる。H22年度に調査測量設計を行い、H23年度に新規ブロックに着手する。	平成18年の豪雨により市道に段差が発生、平成20年の豪雨でさらに拡大したことから地すべり活動の沈静化に向け、継続して対策工を行う必要がある。	緊急性が高く、必要性、重要性も認められる。	「継続」
					重要性 A	特記事項 特になし。					
		2億円	1700万円	2090万円	1億8300万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=1.97				
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし。					
40	きだたに 定谷  〔長野市〕	排土工V=5,170㎡、押さえ盛土工V=15,620㎡、谷止工 2基、横ポーリング工 L=4,929m、法面工A=2,210㎡、水路工L=1,519m 〔工期：H18～H24〕	横ポーリング工 L=665m 水路工L=300m	横ポーリング工 L=500m 水路工L=200m	横ポーリング工 L=965m 水路工L=600m	必要性 A	73.7%	H22年度にGブロックの地すべり対策が完了し、H23年度ではF-3ブロックの対策工事に着手する。	平成18年7月の地すべり災害に隣接したブロックであり、地すべり活動が見られることから、継続して対策工を行う必要がある。	予定工期内での概成を図る。	「継続」
					重要性 A	特記事項 H18年度災害緊急対応箇所。					
		3億5000万円	2500万円	2000万円	9203万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=2.23				
					緊急性 B	住民参加状況等 特になし。					

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策			補助・単独別		補助	建設部 砂防課		
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
41	しもきたお 下北尾  〔小川村〕	集水井工 1基 法面工A=15200m <sup>2</sup> 横ボ-リング工 L=3400m 水路工L=1200m 杭工 N=30本 アンカー工N=210本 〔工期:H15~H24〕	法面工A=3,000m <sup>2</sup> 水路工L=300m	法面工A=3,000 m <sup>2</sup> 水路工L=300m	法面工A=3,000m <sup>2</sup> 水路工L=300m アンカー工 N=210本	必要性 A	80.1%	法面工を順次上部から進めている。H23年度も、引き続き法面对策を実施する。	平成15年度に発生した地すべり災害箇所 の対策を実施して おり、地すべり活動が 活発化すると重要交通 網等に直接被害が及 ぶ恐れがあるため引 き続き対策を続ける 必要がある。	予定工期内での概成 を図る。	「継続」
						重要性 A	特記事項 H15年度災害緊急対応箇所。				
		7億8000万円	8000万円	7040万円	1億5500万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=2.46				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
42	あなお 穴尾  〔小川村〕	集水井工 3基、横 ボ-リング工 L=10000m、水路工 L=2500m、アンカー工 N=100本、法面工 A=780m <sup>2</sup> 〔工期:H16~H23〕	横ボ-リング工 L=800m 水路工L=240m	横ボ-リング工 L=1,200m 水路工L=200m	横ボ-リング工 L=1,200m 水路工L=200m	必要性 A	93.4%	計画どおり進んでいる。 H23年度に最終ブロックの対策を行い概成を 図る。	災関地すべり対応箇 所周辺においても、地 すべりの兆候が見られ るため引き続き対策を 実施を行ない、平成23 年度概成とする。	平成23年度での概成 を図る。	「継続」
						重要性 A	特記事項 H16年災害緊急対応箇所。				
		5億9400万円	4000万円	3890万円	3900万円	効率性 B	B/C(費用対効果)=1.01				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし。				
43	あじまめ 味大豆  〔小川村〕	横ボ-リング工 L=3000m 集水井工1基 水路工L=200m アンカー工N=50本 谷止工 1基 〔工期:H21~H25〕	横ボ-リング工 L=1000m 水路工L=100m	集水井工 1基	横ボ-リング工 L=1,000m 集水井工1基 開渠工100m アンカー工N=50本 谷止工 1基	必要性 A	38.0%	計画どおり進んでいる。 H22年度に新規ブロックに着手し、H23年度は 引き続き対策工を行い事業進捗を図る。	平成20年融雪によ り、地すべり活動が活 発化したことから、継 続して対策を行う必要 がある。	重要性、緊急性が高 く、必要性も認められ る。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
		1億5000万円	3000万円	2000万円	9300万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=5.51				
						緊急性 A	住民参加状況等 明治18年に地元住民により自主的に組織さ れた砂防惣代が今に至る120年余にわたり土砂災害の巡視等維 持管理活動に参加している。				
44	しもならい 下奈良井  〔長野市〕	横ボ-リング工 L=6,550m、水路工 L=1,687m、谷止工 5 基、アンカー工46本、集 水井工 1基 〔工期:H16~H25〕	谷止工 3基	横ボ-リング工 L=430m 水路工L=160m	横ボ-リング工 L=2,502m 水路工 L=1,155m 集水井工 1基	必要性 A	67.7%	計画どおり進んでいる。 H22年度に谷止め工を行い、H23年度からブ ロックに着手する。	災関地すべり対応箇 所周辺においても、地 すべりの兆候が見られ るため引き続き対策を 実施する必要がある。	緊急性が高く、必要 性も認められる。	「継続」
						重要性 B	特記事項 H16年災害緊急対応箇所、H19年の融雪期にも人家前の法面 が崩落するなど被害が拡大。				
		4億6000万円	3000万円	2090万円	1億2252万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=1.84				
						緊急性 A	住民参加状況等 水路工清掃の協働作業を行っている。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	11地すべり対策				補助・単独別		補助	建設部	砂防課
番号	箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
45	さんのう 三王  〔長野市〕	横ボーリング工 L=8,200m 水路工 L=2,400m 谷止工 10基 〔工期：H18～H26〕	横ボーリング工 L=1,360m 水路工 L=206m	横ボーリング工 L=1,360m 水路工 L=206m	横ボーリング工 L=3,766m 水路工 L=1,012m 谷止工 6基	必要性 A	56.8%	計画どおり進んでいる。 H22年度に新規ブロックに着手し、H23年度は引き続き対策工を実施し事業進捗を図る。	地すべりブロック脚部の滑動による崩壊が著しく、拡大すると人家等へ影響が及ぶため、継続して事業を実施する必要がある。	必要性が認められる。	「継続」
						重要性 B	特記事項 H22年度計画変更 横ボーリング工3200m増、事業費1億8千万円増、工期3年増。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.34				
		4億円	3000万円	2000万円	1億7260万円	緊急性 B	住民参加状況等 水路工清掃の協働作業を行っている。				
46	しもふるさわ 下古沢  〔長野市〕	横ボーリング工 L=3,915m 集水井工 2基 水路工 L=340m 〔工期：H20～H24〕	横ボーリング工 L=1,000m 水路工 L=50m	横ボーリング工 L=660m 水路工 L=22m	横ボーリング工 L=869m 集水井工 2基 水路工 L=105m	必要性 A	50.1%	計画どおり進んでいる。 H23年度においてもBブロックの対策を引き続き行う。	H18年度融雪により地すべり活動が活発化し、村道等に地すべり変状が見られ対策を実施しており、継続して事業を実施する必要がある。	必要性、重要性が認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特に無し。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.11				
		2億2000万円	3000万円	3960万円	1億980万円	緊急性 B	住民参加状況等 住民により水路工清掃、草刈等の協働作業を実施している。				
47	みかの 三ヶ野  〔長野市〕	横ボーリング工 L=9,000m 水路工 L=2100m 谷止工 10基 法面工A=277㎡ 〔工期：H21～H29〕	横ボーリング工 L=900m 水路工 L=170m	横ボーリング工 L=852m 水路工 L=369m	横ボーリング工 L=8,100m 水路工 L=1730m 谷止工 10基 法面工A=277㎡	必要性 A	12.8%	計画どおり進んでいる。 H22年度から新規ブロックに着手し、H23年度も引き続き対策工を行い事業進捗を図る。	平成20年融雪期に地すべりが活発化し、上部人家へ拡大する可能性があることから、引き続き対策工を行う必要がある。	重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=3.03				
		4億4000万円	3000万円	2600万円	3億8370万円	緊急性 A	住民参加状況等 水路工清掃、草刈等の協働作業を行っている。				
48	たのいり 田の入  〔長野市〕	横ボーリング工 L=5,370m 水路工L=500m 〔工期：H22～H26〕	調査測量設計 1式	横ボーリング工 L=665m 水路工L=300m	横ボーリング工 L=5,370m 水路工L=500m	必要性 A	10.0%	H22年度に調査測量設計を行ない、H23年度から対策工に着手する。	平成21年7月に地すべり災害が発生した箇所であり、災害箇所周辺にも地すべり兆候が見られることから、早期に対策を行う必要がある。	緊急性が高く、必要性、重要性も認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=5.50				
		2億円	2000万円	2000万円	1億8000万円	緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
合計	48箇所	202億4355万円	21億4208万円	16億2550万円	73億4712万6千円		A:配点の75%以上 B:50%以上75%未満				